

公共交通機関における 優先座席の効果的な運用に関する調査



2019180 澤田莉子
2019209 高田夏光
2019273 西原真美
2019315 福士苑果

目次

1. 背景(スライド番号#3)
2. 既往研究について(#4)
3. 目的(#5)
4. 【調査A】—鉄道事業者向け調査(#6,7)
5. 【調査B】—鉄道利用者向け調査(#8,9,10)
6. 考察(#11)
7. 今後の展望(#12)
8. 参考文献(#13)

1. 研究の背景

衝撃事件の核心

はき違えた正義感、優先席巡り凶行

2018/10/29 12:00

* 産経新聞2018年10月の記事より

社会的背景

① より多様性に富み、包摂的な社会の構築が求められている

⇒ 電車内トラブル、心のバリアフリー推進

② 新型コロナウイルス感染症拡大の影響

⇒ 電車内での乗客同士のコミュニケーションが抑制されている

③ 高齢者の人口増

⇒ 優先座席の需要と供給が一致していないのではないか(座席数の不足など)

2. 既往研究について

- 調査データが最新ではないー押越ら(2014)など
- 新型コロナ感染症流行を踏まえた
公共交通機関の利用、優先席に関する調査は見受けられず
- 鉄道事業者や一般利用者の属性に偏りがあるー土橋ら(2020)など
(営業規模／地域の異なる複数の事業者、様々な属性の利用者など)

→対象を広げた、最新の調査が必要

3. 研究の目的

- ・公共交通機関における**優先座席の課題**を明らかにする
- ・優先座席の**効果的な運用**の指針を得る

ポイント

コロナ渦を経た今、公共交通機関の運用／利用について

- ▶ 鉄道事業者は何を**課題**と認識しているのか
- ▶ 利用者はどのような**要望**を持っているのか

4. 【調査A】鉄道事業者向け調査(アンケート&ヒアリング)

アンケート概要

- 実施期間 令和4年8月1日～現在(11月30日)も継続中
- 調査対象 全国の鉄道事業者(送付総数143社) ※概要に記載の147社は誤り
- 回収数 48社(郵送回答15件、ウェブ回答33件)
- 調査内容 ①優先座席利用の現状 ②社会デザイン案に対する評価
 - ↳ 譲りますシート、座席交互配置レイアウト、優先乗車レーン
- 調査目的

優先席の現状に対する課題認識を調査する

4. 【調査A】鉄道事業者向け調査(アンケート&ヒアリング)

アンケート結果

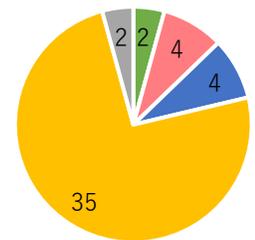
- * 営業規模・営業地域など幅広い属性の事業者から回答を得た
- * 回答があったうち、一部の企業にはヒアリング調査も実施

優先座席⇒「座りたいが譲ってもらえない」「優先座席なのに若者が座っている」
コロナ後⇒マスクの着用有無、車内での会話・飲食に関する意見が中心

課題

事業者は利用者に対する強制力を持たない
ポスターやマナー啓発による支援(お願いの範囲)が限界である

事業者区分別



■ JR ■ 大手民鉄 ■ 公営
■ 中小民鉄 ■ その他

5. 【調査B】鉄道利用者向け調査(アンケート&ヒアリング)

アンケート概要

①-1. 大学生を中心とした「譲る側」(回収数60件)

電車内での譲り合い精神の意識調査

①-2. 「譲る側」への再調査(回収数27件)

高齢者に対する譲り合い精神の意識調査

* アンケート後、一部回答者を対象に回答の深堀を目的としたヒアリング調査を実施

② 高齢者と妊婦、乳幼児連れ(現在 73件回収済 引き続き調査中)

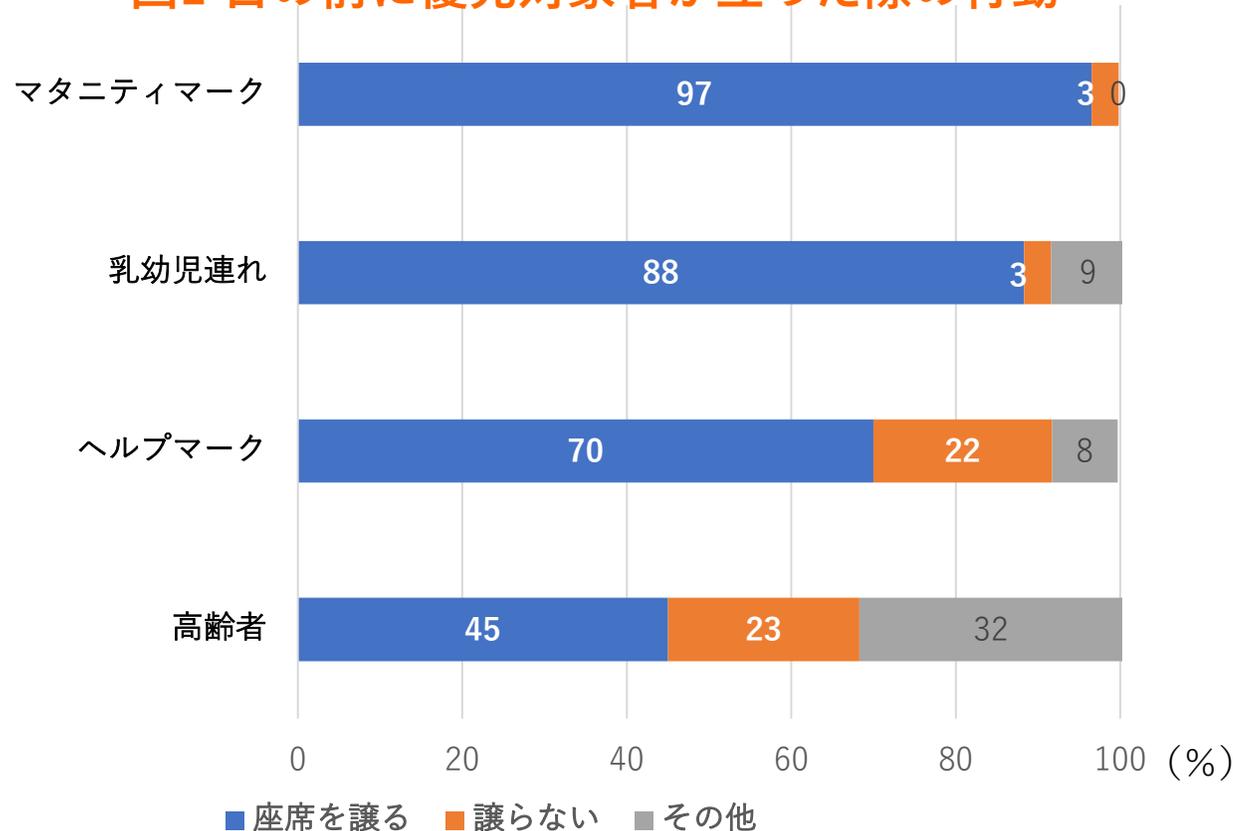
優先席の利用に関する調査

* 札幌市の老人福祉センター、子育て支援団体へ協力を依頼

5. 【調査B】鉄道利用者向け調査(アンケート&ヒアリング)

アンケート結果 「譲る側」の回答

図1 目の前に優先対象者が立った際の行動



高齢者には譲らない理由

譲る気持ちはあるが...

- ・席を譲られるのが嫌な人もいるから
- ・譲って怒られる可能性があるから

5. 【調査B】鉄道利用者向け調査(アンケート&ヒアリング)

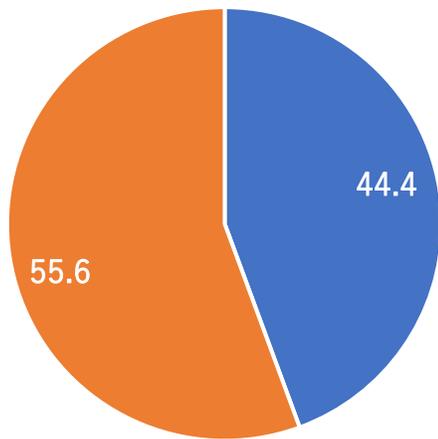
アンケート結果 「譲られる側」の回答

図2 譲られたが断った経験

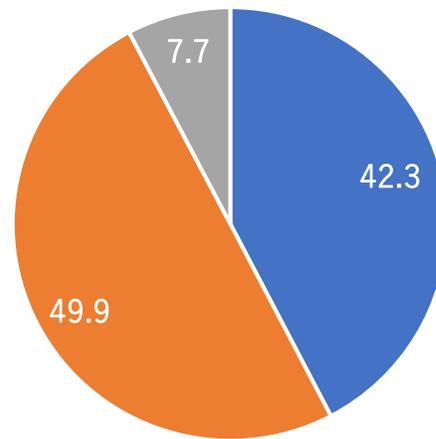
図3 満席時に譲ってもらいたいか

(マタニティマーク & 乳幼児連れ)

(高齢者)



■ ない ■ ある



■ 出来れば座りたい ■ 場合による ■ 座りたくない

- ・譲られるが、立ってほしいこともある
- ・出来れば座りたいが、譲ってもらえない

課題

譲るべき人なのか
見分ける方法は？

6. 考察

- 目的:
- ・公共交通機関における**優先座席の課題**を明らかにする
 - ・優先座席の**効果的な運用**の指針を得る

明らかになった

- ・**鉄道事業者側の課題** 「優先座席のマナー啓発には限界がある」
- ・**鉄道利用者の要望** 「譲る気持ちはあるが、譲って良いかわからない」

効果的な運用のために

⇒利用者同士の**意思疎通**を支援する仕組みが必要

7. 今後の展望

乗客同士の意思疎通を支援する 社会デザイン の提案

「譲りますシート（仮称）」

座席を譲りたい！

けれど、声を掛ける勇気がない人のための座席

譲りますシート
積極的にゆずる意思のある方がお座りください。
お座り頂きありがとうございます。

* 峰尾（2016）より

「優先乗車レーン（仮称）」

最終車両拡大図



駅のホーム上
優先席に近い位置にレーン設置

事業者コメント（一部抜粋）

「意識付けには効果があるだろう」「乗客の混乱を招く可能性がある」「周知に時間がかかる」

8. 参考文献

[1] 伊藤亜紗ら『「利他」とは何か』（集英社新書, 2021）

[2] 峰尾真人(2016)「電車の優先座席運用が及ぼす利用者間の譲り合い行動への影響」小樽商科大学, 卒業論文

[3] 谷越大輔(2020)「コミュニケーション支援ツールに注目した 電車内の座席譲り合い行動に関する研究」小樽商科大学, 卒業論文

[4] 国土交通省, 鉄道事業者一覧

<https://www.mlit.go.jp/statistics/details/content/001482051.pdf> (2022年11月22日最終閲覧)

[5] 押越良介ら(2014)「優先席に関する調査研究」JR東日本

https://www.jreast.co.jp/development/tech/pdf_47/tech-47-13-18.pdf (2022年11月22日最終閲覧)

[6] 土橋喜人ら(2020)「公共交通機関の優先席の実効性に関する考察」

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jais/22/1/22_1/article/-char/ja/ (2022年11月22日最終閲覧)